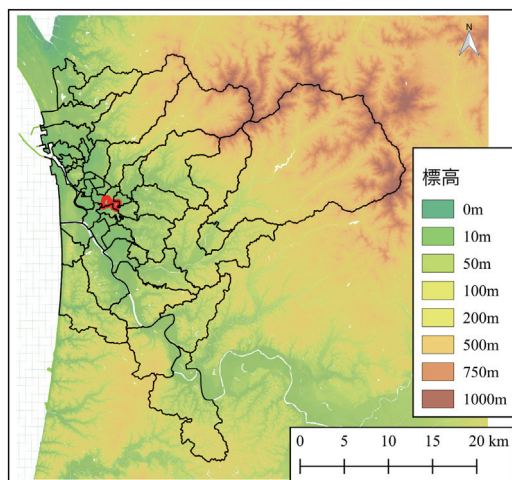


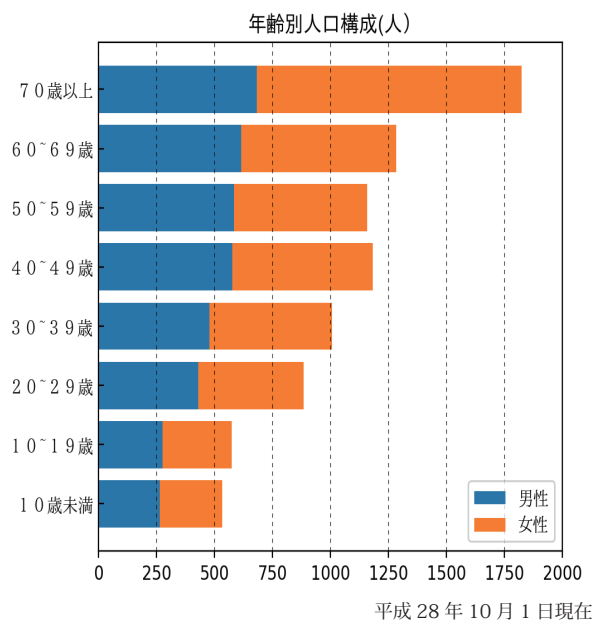
23：中通小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	8,814 人
世帯数	4,815 世帯
65 歳以上人口	2,502 人
10 歳未満人口	533 人



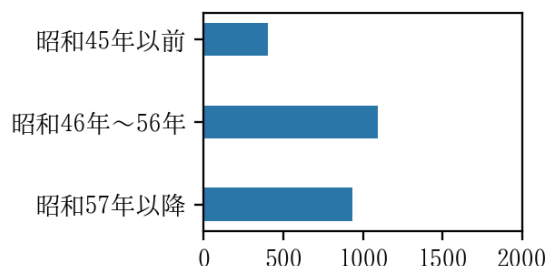
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	2433
非木造建物	620

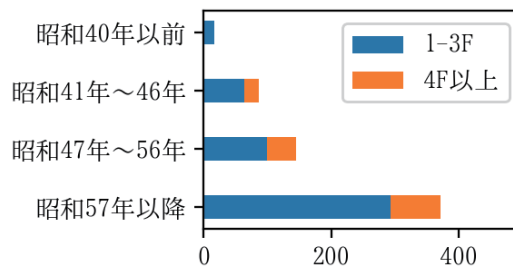
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	935
昭和46年～56年	1,094
昭和45年以前	404



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	294	78
昭和47年～56年	100	45
昭和41年～46年	63	23
昭和40年以前	17	0



平成 22 年 8 月現在

自然的・社会的基本指標

秋田市の中心部、JR 秋田駅を挟んでその東西に位置している。人口、建物の密集度が高く、商業地域であることから非木造建物の比率が高いのが特徴となっている。学校区の西端を旭川が流れている。地形は平坦で地盤は沖積層が広く分布している。人口構成は 65 歳以上の高齢者層の割合は 28% と秋田市全域での平均的な値に近い。非木造建物は新耐震建物が多いものの、木造建物については昭和 56 年以前の非耐震建物の比率が高い。昭和 57 年以降の建物は全体の 42% である。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	旭川	太平川	雄物川
浸水面積 (%)	16.7	10.3	70.7
最大浸水深 (m)	ランク 1	ランク 1	ランク 4

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	1	橋山明田
土石流危険渓流	0	該当箇所なし
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	0	該当箇所なし

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	0	該当箇所なし
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度	震度 6 弱	
(計測震度)	(5.97)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	34	
液状化危険度ランク	3	
建物全壊率 (%)	6.7	

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が運動した場合)

浸水面積 (%)	(該当なし)	
最大浸水深 (m)	(該当なし)	

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	8
婦人幼児支援	3
障がい者等支援	4

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	6
こども園	0
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	1

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	0
高等学校	2
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	99
防火水槽 (箇所)	6
消防車台数 (台)	6
消防ポンプ数 (台)	2
消防団員数 (人)	30

■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	0
土砂災害	5
地震	5
津波	0
福祉避難所	2
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	城東消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	31
最寄りの救急告示病院	中通総合病院
自主防災組織数	6

自然災害時の危険要素

河川の氾濫による浸水に対しては一部地区(野添地区、東通明田地区など)を除き全体に脆弱な地区である。雄物川の洪水では学校区の 70% が最大 10m 未満の浸水(ビルの 3F まで浸水)することが想定されているほか、旭川および太平川の洪水によっても全域の 10%~20% の地区で 50cm 未満の浸水となることが想定されている。

土砂災害についてはほぼ危険性は無いとされている(がけ崩れの危険箇所 1 箇所を除く)。

地震動についてはほぼ全域同等の揺れやすさとなっているが、特に千秋公園東縁から旭川河口部方向に向かって北東-南西方向に延びる線状帯(旧河道部と見られる)では、やや揺れやすくなっている。液状化の危険性はやや高い。津波の浸水の危険性は低いと想定されている。

防災上の課題と対策

中通小学校区は、JR を挟んで西側の商業地域を主体とする地区と東側の住宅地域に大別される。西側では、救急告示病院である中通総合病院をはじめ多数の医療機関があり、災害時には負傷者の治療等がスムーズに行えるものと期待される。高層の建物も多いことから、建物の倒壊で道路が塞がれたり、ガラスなど落下物により通行に危険を伴うおそれがある。災害時に非居住者が相当数滞留すると推定される。災害時には避難車両、救援車両等で道路の渋滞が発生する可能性もあり、車両の流入規制等を含めた迅速な対応が求められる。

学校区東側は住宅地であるが、学校区内には指定避難施設はない。住宅の密集度が高いため、災害時に火災が発生すると延焼しやすいと考えられる。延焼を防ぐには出火の防止と初期消火が重要であり、そのためには住民の協力が欠かせないことから、住民の防災意識の向上を図る必要がある。

学校区全体として、洪水時に利用可能な避難場所、避難所がないことから、災害時の避難施設やそこへ至る避難経路など予め住民が主体となり災害種別を考慮した地域避難計画の検討が必要である。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
榑山地区 コミュニティセンター	○	x	○	○	x	x	209人
中通小学校グラウンド	x	x	○	○	x	x	2,720人
中通小学校（体育館）	○	x	○	○	x	x	300人
榑山緑地（榑山公園）	x	x	○	○	x	x	3,000人
拠点第一街区公園	x	x	○	○	x	x	3,750人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
リフレッシュコア中通	中通四丁目 3-23	018-874-8277
小規模多機能居宅介護 幸の家	南通亀の町 12-22	018-832-3008

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

